

05 地域包括ケア

5年後のめざす姿
多くの高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしをしています。



高塚第二公園で行われた「高塚いきいき体操」

住み慣れた地域で自分らしく、いきいきと暮らし続けることができるよう、医療、介護、福祉サービスなどを一体的に提供し、全ての世代で支え・支えられるまちづくりのため、「コロナ禍においても」地域包括ケアシステム」の構築が大切です。



SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴール・169のターゲットで構成されています。市でも「誰一人取り残さない」まちづくりを進めています。

地域包括ケアシステムの課題は？

なぜ地域包括ケアシステムが必要なの？

- 急速に少子高齢化が進んでおり、団塊世代が75歳以上となる2025年以降、医療や介護などの需要の急増が予想される。
- 認知症高齢者の増加が見込まれる。
- 要介護者を支える介護職が大きく不足し、今ある介護保険サービスだけでは支えきれない状況が予想される。

このような社会に備え…

医療や介護が必要になっても安心して暮らし続けられる地域づくりや体制が必要 = 「地域包括ケアシステムの構築」

近年、さらなる課題が…

- 親の介護と育児を同時に行う「ダブルケア」や中高年となったひきこもりの子どもを養う親が高齢化し、介護や生活困窮を同時に抱えて行き詰まる「8050問題」など高齢者をめぐる課題が複合化してきている。
- 高齢者だけでなく、障害者や子育ての分野でも地域での相談支援体制が必要になってきている。

地域共生社会の実現へ

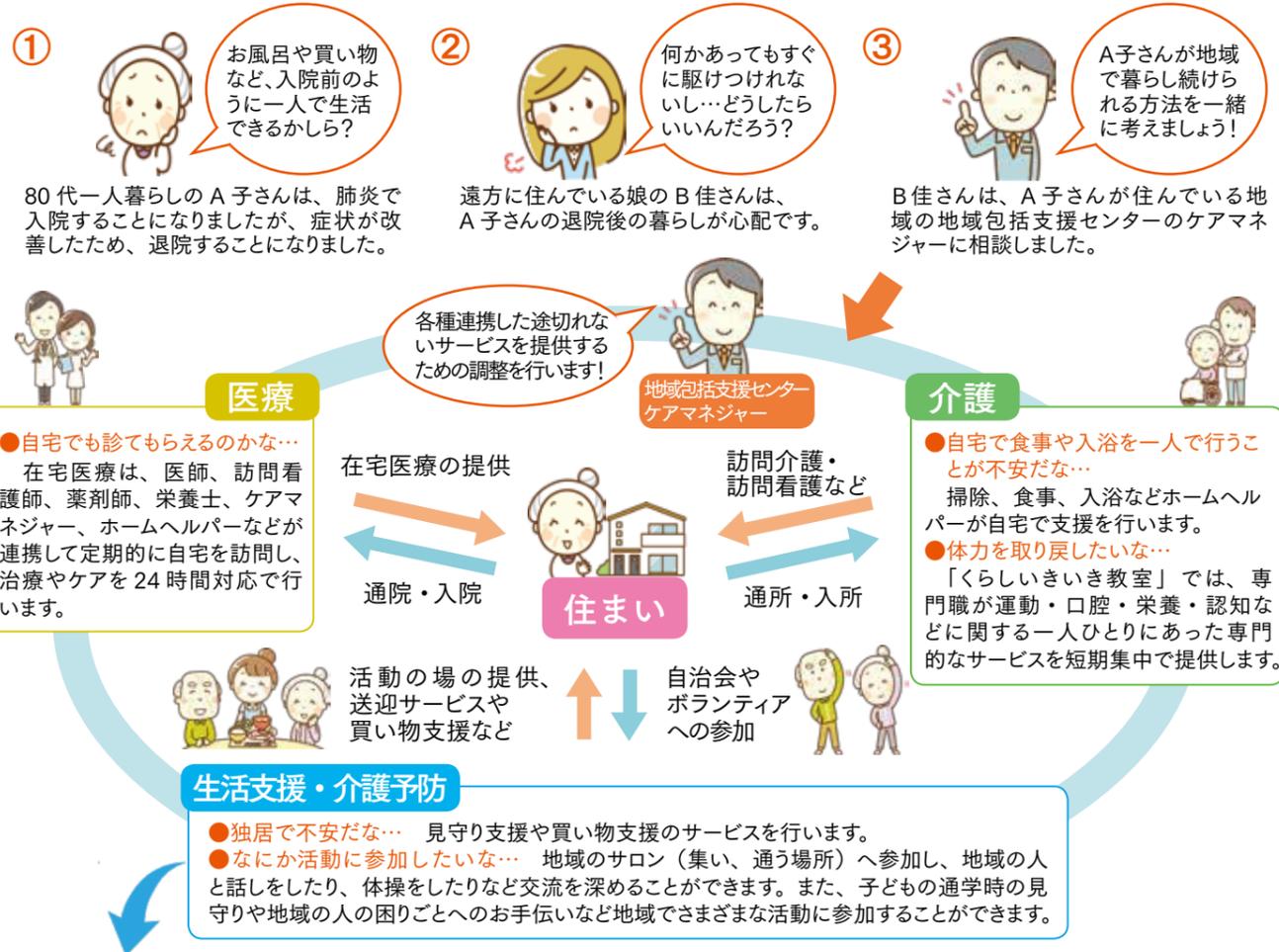
年齢や性別などにかかわらず、全ての人々が自分らしくいきいきと暮らすことのできる「地域共生社会」の実現に向け、公的なサービスを基本としながらも地域で生活するさまざまな問題を他人事ではなく、「わが事」として考え、住民同士がつながり、支え合うことが大切です。

地域包括ケアシステムは、地域共生社会を実現するための仕組みでもあるため、さらにシステムの構築を進めていく必要があります。

地域での支え合いづくりが大切なんだね!



地域包括ケアシステムのイメージ



●地域で行われている取り組みを紹介します!



庭の草取りのお手伝い

益世地区の益世支え愛の会は、少しでも安心して楽しく住み続けられる地域をめざし、地区住民のちょっとした困りごとへの有償のお手伝い活動（ごみ出し、庭の草取りなど）や交流の場・気軽に行ける場となる「通いの場」づくりなどさまざまな活動を行っています。



園児の送迎

精義地区の精義おたすけ隊は、支え合い・助け合いのある地域をめざして、地区内にお住まいの高齢者や子育て中の皆さんの日常生活の困りごと（アイロンかけ、粗大ごみ出し、買い物代行、園児の送迎・付き添いなど）をお手伝いする有償のボランティアグループとして、世代問わず活動しています。

誰もがいきいきと暮らしやすいまちづくりへ

市では、各地区にある地域包括支援センターの他に子育てや障害、介護など、さまざまな福祉分野の相談に対し、総合的に対応する窓口「福祉なんでも相談センター」を3カ所設置しています。「どこに相談すればいいかわからない」「福祉サービスの情報を知りたい」「誰かに聞いてほしいことがある」など気軽に相談をすることができます。

名称	担当地区	場所	開所日時	電話
福祉なんでも相談センター	桑名	大山田コミュニティプラザ	火～日曜日、祝日 午前9時～午後5時 ▷月曜日が祝日の場合は開所しません	☎ 41-2114 FAX 41-2174
多度福祉なんでも相談センター	多度	多度すこやかセンター	月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分 ▷祝日除く	☎ 49-2031 FAX 49-2533
長島福祉なんでも相談センター	長島	長島デイサービスセンター	月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分 ▷祝日除く	☎ 42-2119 FAX 41-0515

地域包括ケア

地域包括ケアシステムの
仕組みを多世代に活用します。



5年後のめざす姿



- 高齢になっても住み慣れた地域で自立した生活を続けられる
- 高齢者が健康で充実した生活を続けられる
- 要介護となっても質の高い介護サービスが安心して受けられる

指標

高齢者の自立を可能に
介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らし続けられると感じる割合

5年後維持へ

令和2年度実績 (ニーズ調査より)

53.9%

市民が取り組みます！

市が取り組みます！

【コロナ禍においても工夫して取り組みが行われています】

現在、コロナ禍において、人と会う機会が制限される厳しい状況となっています。通いの場（高齢者の社会参加）においては、感染症対策をしっかりと行いながら屋外で体操を行ったり、電話や手紙を利用して地域の人との交流を行ったりと工夫して活動が行われています。また、市では、広報くわなやホームページなどでコロナ禍における介護予防などに関する情報提供を行っています。



認知症キッズサポーター養成講座に参加する子どもたち



福祉なんでも相談センター

- 地域の中で自分の役割を理解し、協力して行動しましょう。
- ご近所同士で安否確認など声をかけあい、地域で支え合いましょう。
- 老人クラブ、健康教室、ボランティア活動などで生きがいをつくり、介護のいらぬ生活をめざしましょう。

Q 認知症の人が住み慣れた地域で生活を続けたい場合、適した介護サービスはありますか？

A 住み慣れた地域で生活を続けられるように支援する小規模多機能型居宅介護サービスがあります。利用する人の状態に応じて「通い、泊まり、訪問」の3つのサービスを組み合わせる在宅介護サービスを提供します。

市民編集員の
これも聞きたい

認知症の人が住み慣れた地域で生活を続けたい場合、適した介護サービスはありますか？

諏訪さん (70代)

(介護高齢課)

現在

地域包括ケアシステムの構築をめざす

地域包括ケアシステムの構築を着実に実現するため、「桑名市地域包括ケア計画」を策定し、各分野の専門職、地域の関係者と毎年計画の見直しなどを行ったことで各分野の専門職で情報・方針が共有され、一体的にサービスの提供が行われるようになってきました。

また、地域では、支え合いの取り組みや介護予防に取り組むことができる「通いの場（高齢者の社会参加の場）」が増え、地域の人との交流が広がっています。



ラジオ体操の会

在良お助け隊のごみ出し支援

市長とみんなのネクストビジョン

No.5 地域包括ケア

特集「桑名市総合計画をひもとく」の第5弾は「地域包括ケア」です。

「地域包括ケア」。介護に関わる人であれば日常的に使う言葉ですが、まだまだ耳慣れない人もいるかもしれません。言葉は難解ですが、考え方はそう難しくありません。「高齢者になっても、住み慣れた地域で自立した生活を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援などを一体的に提供し、全ての世代で支え・支えられる地域づくりをする」という考え方は、少子高齢化が急ピッチで進んでいる中、全国各地で、この「地域包括ケア」の考え方に基いた地域づくりが進められています。

結果です。そして私は地域包括ケアという考え方は、桑名市民の気質にとっても合っていると感じています。地域の一人ひとりが見守りや声かけなど、ささやかな気遣いをしていただいていることが、全ての世代で支え・支えられる地域づくりにつながっています。

今、力を入れているのが「認知症対策」です。認知症の初期段階から集中的にサポートをするチームによる対応の充実や、毎月、認知症についてお話や交流をする「オレンジカフェ（認知症カフェ）」を開催したり、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをめざして暮らせるまちづくりを各市区で開いたりしています。

また認知症についてもっと多くの人に知っていただくことが、今まで認知症と接点があった人と、認知症の人やその家族、介護、医療福祉関係者が一緒にタスクをつなぐイベント「RUN伴」を市内で開催しました。



令和元年10月に行われたRUN伴と一緒に走らせていただきました



過去

制度ごとのサービス

医療、介護、予防、住まい、生活支援などそれぞれの専門職が個々に利用者にサービスを提供していました。

看護師さん、ヘルパーさん、それぞれに同じことを説明するのって大変... 連携されていたらいいのに...



この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ (☎ 24-1492 FAX 24-1119)